

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	神学研究科
大項目	7 国際交流 (研究科)
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流 (国内外における教育研究交流) を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況 (院)

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部・研究科における国際交流方針を策定(設定)する。	→国際交流方針の明示(2013年度までに)。	C	C	C	C	/
2. 策定(設定)した国際交流方針に基づいて、新たな国外協定大学を開拓し、既存の協定大学との新たな展開を図る。	→新規および新たな展開を図った協定大学数(2013年度までに2大学を目指す)。	C	C	C	B	/
3. 全学的な学生交換制度や外国大学プログラムの利用促進を図る。	→留学生派遣および受け入れ人数。外国大学プログラムへの参加学生数。	C	C	C	C	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	まずは既存の海外協定校との取り組みを充実させるという大枠の了解は得られているが、未だ具体的な方針を示すには至っていない。しかし、交流の中身として、交換留学、客員教員の交換、共同研究プロジェクト、研究会・シンポジウムの共催等を具体的な中身とすることについて一致が得られている。2012年度に主だった進捗はないが、研究科にて具体的な方針策定に向けて動きはじめた。この目標1は、後の目標2、3を図っていく上で前提となるものであり、2013年度中に策定する。
目標2	学術文化交流として、ベルン大学神学部(スイス)および監理教神学大学院(韓国)と学部間(あるいは学部-大学院間)協定を締結している。監理教神学大学院については、加えて2010年度に大学院間における学生交換協定を締結するに至り、今後はその派遣・受け入れの実績を重ねる必要がある。監理教大学院からは、本研究科の特性をよく理解した上で学生が留学してきており、またスタッフが定期的に相互に訪問し合う等、良好な関係が構築されている。交換留学についてはベルン大学についても同様の検討を行っているが、諸処の事情から進捗をみていない。ただし毎年スタッフが訪問を重ね、2011年度には客員教員2名の招聘(ベルン大学教授[スイス])を行った。2012年度については、スタッフ訪問(ベルン大学神学部、監理教神学大学院とも)のみであるが、引き続き関係性は継続されている。
目標3	交換留学は大学の制度を利用するが、近年は2007年度1名(ドイツ・アウグスブルク大学)、2009年度1名(韓国・延世大学:本学大学院修了後、同大学院博士課程へ進学)の派遣に留まる。外国大学院における修得単位について、修了必要単位の範囲外ではあるが「外国大学院科目」として本研究科の単位として認定する仕組みを設けるなど(2011年度)、制度面の整備は進んでいる。仕組みの整備は進んでいるので、今後はどのようにして学内プログラムの利用を促すかを検討していく必要があり、目標1とともに早急に検討を進める。
備考	

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【神学研究科】			単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		外国人留学生	正規	人	3	2	2	0	1	1	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	0	0	0	0	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	10.3	7.1	7.1	0.0	4.0	4.0	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	0	1	0	0	0	0	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	0	0	0	0	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)